救世軍公報

SALVATIONIST ときのこえ

二〇二〇年一月十五日発行
明治二十八年創刊
福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

2020年標語「キリストを知る」（ローマの信徒への手紙8章31～39節）

新春号
広報版
2020
January-February
No.2795

ときのこえ　SALVATIONIST

新春号　広報版
2020 January – February
NO.2795

2020年　救世軍標語

「キリストを知る」

聖書箇所：ローマの信徒への手紙８章31～39節

　では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。 わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありましょうか。だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。だれがわたしたちを罪に定めることができましょう。死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。

　「わたしたちは、あなたのために
　一日中死にさらされ、
　屠られる羊のように見られている」

と書いてあるとおりです。しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

ブラムエル・H・ティルズリー大将　天に召さる

　ブラムエル・H・ティルズリー大将は、2019年11月2日（土）、カナダ・トロントの自宅より召天されました。88歳でした。

　1931年8月18日、カナダのオンタリオで救世軍人の家庭に生まれ、1953年、モードゥ・ピッチャー嬢と結婚後、1955年『霊剣帯用者』の学年候補生として夫妻で士官学校に入校。任官後は、小隊、連隊、士官学校、士官のための万国士官学校等の責任者を歴任し、アメリカやオーストラリアで軍国指導者の任を負われました。1991年、参謀総長の任を受け、1993年、救世軍第14代大将・万国総督に選出されました。短い任期でしたが、世界を飛び回り、福音を宣べ伝えられました。

　御遺族の上に神様の御慰めをお祈りいたします。

- きりとり -

□『ときのこえ』購読を申し込みます。
（1年分1140円。税込、送料別）
□キリスト教についてもっと知りたいです。

御氏名 ______________________

御住所 ______________________

____

表紙の写真：献堂を待つ士官学校新校舎講堂
（献堂式の記事は後報）

もくじ

■メッセージ
キリストを知る
司令官　ケネス・メイナー ………3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ　第九回
山室軍平の聖潔
中将　朝野 洋 ………4
■キリストを知る
証言　横浜小隊　山口朔生 ………5
■集会報告
感謝祭献納集会
西日本連隊 音楽祭及び第49回大阪府民クリスマス・プレ集会 ………6
■各地のニュース !!
ウエリントン・シタデル・バンド
2019来日ツアー① ………7
清瀬小隊、京都小隊、ブース記念病院、
桐生小隊、月島小隊 ………8
高知小隊
開戦100周年・献堂30周年記念集会 ………9
臨時社会鍋、遠軽小隊、
渋谷小隊・八王子分隊
男子社会奉仕センター ………10
■災害対策室リポート ………11
■各地のニュース !!
杉並小隊・総合センター別館、女性部
■ YP（青少年部）・ファミリーニュース
福山小隊、高松小隊、高知小隊、
青少年部 ………12
レボリューション・ハワイの恵み
神田小隊　兵士　山口エリ ………13
■救世軍見解表明
社会道徳に対する救世軍の立場
第１回「人工妊娠中絶」（4）
第２回「アルコール」（1）
■〈連載・第３回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
（2）礼拝への呼びかけ ………14
■召天記事
■〈救世軍見解表明の解説〉
■救世軍公報 ………15
■キャンペーンのアルバム ………16

キリストを知る

二〇二〇年軍国標語（ローマの信徒への手紙８章31～39節）

司令官　ケネス・メイナー

　復活のキリストがわたしたちのためになしてくださったあらゆることを深く理解するならば、わたしたちは、キリストの変革する力を体験し、

　「わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています」（ローマ８・37）

という驚くべき真理に共鳴します。

　使徒パウロがローマの教会と分かち合ったこの真理は、今日、わたしたちの心にも響き渡るものです。

　生きていく上での困難は避けて通れず、それは、実に厳しいものです。わたしたちは誰でも、消すことができない過ちを犯し、回復不能な損失を経験し、自分だけでは対処できない痛みや、迫害、悲劇、重荷、失望に直面します。けれども、わたしたちが自分たちだけでそれらと立ち向かわなくてもよいということは、良い知らせです。

　復活のキリストは、わたしたち一人ひとりを完全に知っておられ、理解してくださいます。わたしたちを見ておられ、その心のすべてでわたしたちを気にかけてくださるからです。イエス様は、深い思いやりと、完全な力をもって、わたしたちの人生の一瞬一瞬を共に歩んでくださっています。

　イエス様は、その復活と教え、希望と平和、模範を通して、わたしたちの人生を変えてくださいます。試練に立ち向かうよう助け、勇敢な信仰をもって前に進むよう、聖霊の光の中を歩ませてくださるので、わたしたちにとってとても大切な方なのです。

■イエス様は変革を可能にしてくださる

　わたしたちは皆、過ちを犯す存在です。イエス様の生涯、その死と復活を通して与えられる、古いものに代わる新しい命という賜物がわたしたちには必要です。

　つまずき倒れた時、敵であるサタンは、あなたが立ち上がって、正しい道に戻るのに、もうふさわしくない、と考えるよう唆します。サタンはまた、福音が「変革の福音」であることをわたしたちに忘れてほしいと願っています。

　キリストの恵みは今も実在し、力強く、変革を与えることができます。わたしたちには、今よりさらにイエス様に愛してもらうためにできることなど、何一つありません。また、わたしたちが何をしたとしても、イエス様がわたしたちを愛さないようになることも不可能なのです。

　イエス・キリストの贖いの力はわたしたち一人ひとりに提供されています。けれども、キリストの愛が、わたしたちの人生に働かれるように、と自ら選び取っていく必要があります。

■イエス様はわたしたちに御自身による希望を与えてくださる

　深刻な課題に直面したとき、イエス様に信頼することに難しさを感じる瞬間があります。しかし、主に信頼することによって、課題に立ち向かうために必要な希望は与えられます。イエス様だけが、御自身の慰めの言葉で、わたしたちの傷ついた魂に触れることがおできになるのです。

■イエス様が先立っていてくださる道がある

　イエス様はその宣教を通して、より良い生活への道を指し示されただけでなく、実際に先立ってわたしたちが歩むべき道を示されました。復活のキリストは、わたしたちを無条件の愛へと、御自身の愛によって導いてくださり、その教えを通して、わたしたちを永遠の真理に導いてくださいます。また、イエス様の完全な生き方が、わたしたちを神様に全く明け渡す道へと導いてくださいます。この地上で最も偉大な模範を示された方は、わたしたちの救い主イエス・キリストです。主の地上における宣教は、ダイナミックな教えと、どのように仕え、どのように人々を愛するか、という示唆に満ちています。イエス様は、御自身の模範に倣うよう、わたしたちを招いておられます。

　救い主が、新しい人生を可能にし、永遠の真理を教え、希望と平和を与え、完璧な模範を示してくださることを理解するなら、イエス様は、わたしたちの人生の中心となってくださいます。この方が友でいてくださるなら、わたしたちは恐れを乗り越える力をいただくことができるのです。

■考えてみましょう

○イエス・キリストによってあなたの人生は、どのように変わりましたか？

○今日、イエス様からどのような言葉を聞く必要がありますか？

○人生の困難な時期、あなたはどのように救い主の存在を感じましたか？

○なぜ、イエス・キリストがあなたの人生に大切な存在なのでしょうか？

　あなたの経験を他の方に分かち合いましょう！

（大佐）

初野戦
1月2日
午後1時半～
上野恩賜公園
カエルの噴水前

〈連載〉聖潔の流れに立つ　第九回

山室軍平の聖潔

中将　朝野　洋

緒言

　世界の歴史は、決して偶然の重なり合いではなく、背後にある精神的な犠牲の原理、パウロの言うところの「天に蓄えられている希望」（コロサイ1・5）に起因する。実際に、混乱や罪悪という無秩序と見える事々の中にも、神の支配は行き届き、その贖いによって秩序が生まれるという聖書的な考え方は、多くの人々を勇気づけ、またクリスチャンの祈りを清めて今日に至っている。神の統治の中には、私たちの果たすべき分野がある。

　人の心には神の形をした空洞があるという。それは、神でなければ埋めることのできない空洞である。

一．山室軍平の生涯概観

　明治五（一八七二）年、軍平は、岡山県哲多町（現在の新見市）で、貧しい家庭の八番目の末子として生まれた。十一歳で質屋に養子となるが、目にした貧しい人々の姿と、芽生えた彼らへの同情心は、生涯彼の進路を狂わせなかった。母はその貧しさの中で、山奥で唯一の滋養物である卵を断って、軍平のために祈った。

　十四歳で家出同然で上京。築地の活版工員として働いている時に、築地福音教会の路傍伝道に出合い、明確な回心とともに、キリスト教に入信した。洗礼を申し出た山室だが、洗礼を授けようとしない牧師に待ちきれず、夕立によって自ら洗礼に与ったとする祈りをしたことを記している。実際には数カ月後に受洗した。

　明治二十二（一八八九）年、新島襄を慕って同志社へ入学。山室を生涯支えた、愛の実行者、吉田清太郎と、山室の人生の指針を導いた祈りの人石井十次（岡山孤児院の創始者）に出会う。山室は、石井十次が入院した際、看病をする中で、ウイリアム・ブースの著書『最暗黒の英国とその出路』に出合った。

　同志社卒業直前、新島襄亡き後の同志社の、キリストの十字架抜きのキリスト教神学の影響に抵抗を覚えて退学。石井十次と共に、松山のバックストン宣教師を訪ね聖霊による聖潔の教えに触れる。その生涯を造りかえ、使命を満たす時が近づいていた。

　奇しくも、明治二十八（一八九五）年、救世軍が来日した。

　石井十次は、自らを「東洋救世軍」と名乗っていた。バックストンは、そのような石井のために救世軍への紹介状を書いていた。石井からその手紙を託され、山室は来日間もない救世軍を訪ねた。初会見の印象は非常に悪かったが、渡された『救世軍の軍令及び軍律兵士の巻』に共鳴し、下足番からの救世軍入りを果たしたのであった。山室二十三歳のことである。

　山室は、救世軍において生涯のマスターキーを得た。救世軍士官としての働きについては後述するが、昭和十二（一九三七）年、日中戦争が勃発。それは、一九四五年の敗戦に至る悲劇の序曲であったが、同時に、日本における救世軍の教勢が創業以来最高に上りつめた時であった。そのころ、山室はひたすら『民衆の聖書』の著作に取り組んでいた。杉並に続いて、東京郊外の清瀬に、第二の結核療養所を開設したのが、昭和十四年であった。昭和十五年、一月二十三日、恩師新島襄先生の召天五十年記念会のために群馬県安中教会で「時艱にして偉人を思う」と題する記念講演をしたのが、山室の最後の説教である。

　神に一切を献げ尽くした、祈りと実践の人は、同年三月十三日、使命の生涯を終えて神の御許に召された。

二．当時のキリスト教概観

　当時の日本におけるプロテスタントの源流には、活動の拠点の地名を用い、大きく次のようなバンド（信徒の集まり）があった。

札幌バンド：札幌農学校のクラークの感化によって入信した人々の集まり。内村鑑三を中心とする。後の無教会主義の源流。

横浜バンド：宣教師バラによる横浜海岸教会及び英語塾によって入信に導かれた人々の集まり。植村正久を中心とする。後の日本基督教会の源流。

熊本バンド：熊本洋学校の米国人教師L・L・ジェーンズの影響を受け入信した人々の集まり。海老名弾正を中心とする。後の組合教会の源流。

　ここで、もし仮に、日本に四番目の流れがあるとするならば、それは、民衆労働者を意識して、平民と不遇な中にある人々へ伝道することを目指し、「最も小さい者」（マタイ25・40）のためのキリストの教えを組織、実行し、日本の社会福祉事業の基礎を据えた、山室軍平による「救世軍バンド」であると言えよう。

三．救世軍における聖潔概観

　救世軍の宗教の特徴は、次のように表現できる。

①失われた人を尋ねて救う、「救霊の宗教」
②貧しい者にこそ福音を聞かせる、「民衆の宗教」
③人を強いてキリストへ連れ来たる、「進撃の宗教」
④飢えたときに食べさせ、渇いた者に飲ませる、「実践愛の宗教」
⑤男女や国籍、人種、民族に関係のない、キリスト・イエスにあってひとつであるところの、「世界同胞主義の宗教」

　救世軍は、水による洗礼と、パンとぶどう酒による聖餐をおこなわない。創立者ブースは、国教会で受洗

（5ページに続く）

キリストを知る

証言　言うべきことは聖霊が教えてくださる

横浜小隊　山口朔生

■衝突して

　私の会社は二十名程度の零細企業ですが、社員一万人の企業と衝突したことがありました。と言ってもあちらは発注者、こちらは出入りの業者の一つにすぎません。規模から立場から、対等に「衝突」などとは言える状況ではないのです。

　だから社員からは「大事なお客様だから黙っていた方がよいのでは」と言われていました。

　しかし経営者として言うべきことがあります。先方の部長に「一度会って説明をさせてください」と求めました。部長はしぶしぶという感じで、しかし一応、部下の次長と共に応接室で対応してくださいました。

■取り付く島なし

　こちらが三十分ほど、状況を説明しましたが、すべて拒否されました。取り付く島がないのです。特に先方には二段階の強さがあります。

　まず出入りの業者の主張をいちいち「もっともですね」と納得しているような人では大企業の部長にはなれない、という背景です。クレームを抑え込むのも部長への昇進の評価のひとつだからです。

　もうひとつあります。先方が万一非を認めたとして、こうなるでしょう。「なるほどわかりました。しかし業者はいくらでもいます。あれこれ言って私の時間を奪うような会社は出入りを辞退してもらいましょう」と。

■言いたい放題を

　しかし私はそんなことはまったく無視して、言いたい放題を言いました。同席させた弊社の社員が「出入りの業者がそこまで言っていいの？　と顔を上げられませんでしたよ」と。しかし、私は何も心配しませんでした。「ぜったい論破する」といった気負いもなく、あえて言えばまったく平安でした。

■ガラッと変わって

　前記したように、三十分ほど説明して膠着状態になった時に、ある提案がポッと浮かびました。「実は…　…」ということで簡単に説明しだしたとたんです。部長がいきなり言われました。「ま、ま、冷静になりましょう。今回のことはお詫びします。これからも仕事は依頼します」と。そして威儀を正して頭を下げられたのです。

　この反応はまったく予想外でした。私の方が唖然としてしまいました。そのために次に何を言ったらいいのか頭が真っ白に。「もうそれ以上しゃべるな」と聞こえた気がしました。そこで「ではよろしくお願いします」と言って書類をかたづけ出しました。

　すると部長がいきなり両手で私の手を握ってこられたのです。そして、「こちらこそよろしくお願いします」と。私も、これは両手で握り返さなければと書類を落としたぐらいです。

　後で考えると、それまで出入りの業者のくせに強気で言いたい放題だったのだから、さらに輪をかけて強気に出てくるかな、と警戒をされていたのかもしれません。

■言うべきことは

　この経過はルカによる福音書一二章一一、一二節の聖句のとおりでした。

「会堂や役人、権力者のところに連れて行かれたときは、何をどう言い訳しようか、何を言おうかなど心配してはならない。言うべきことは、聖霊がそのときに教えてくださる。」

　部長さんの気持ちがガラッと変わったのは、きっかけは私のセリフだったとしても、聖霊が部長さんの心の中に働いてくださったのかな、と後で気がついた次第です。

（横須賀分隊軍曹）

one army
ワンアーミー
（ひとつの救世軍）

救世軍の万国的教材『one army ひとつの救世軍』の邦訳が全巻完成しました。すでに、各小隊に届いております。ぜひ、個人で、またグループで学びましょう。
シリーズ10・11は、「信仰／聖潔」がテーマです。本紙連載中の「聖潔の流れに立つ」にあわせて読まれることを、お勧めいたします。

（前ページより）

し、メソジスト教会に育ち、長年儀式になじんではいたが、救世軍を組織するに当たり、聖礼典に対する反対、もしくは批判を一切せず、代わりに「悔い改めの座」（恵の座）と救いの体験を重んじ、信仰告白である「救世軍兵士の誓約書」への署名と、救世軍旗の下での、公開の入隊式という道をとった。

　救世軍の教義の真髄は、回心の絶対的必要と聖霊のバプテスマにある。聖餐はないが、聖別会を重んじ、聖潔の体験の把握と維持を追求した。救世軍が、社会事業の働きにおいて、数百人の街頭生活者を泊め、食べさせ、世に見捨てられた人々を世話したこと等は、聖餐の精神の大規模な活きた実践とも言えるのではないか。初期の頃、フランシスコ会は、「この世紀において、東ロンドン・リバイバル・ミッション（救世軍の最初の名称）は、プロテスタント教会の中での修道会である」と評した。

　ジョン・ウェスレーは、「キリスト教とはすなわち聖潔の宗教にほかならない」と断じた。「救世軍の教理」第十条は次のように宣言する。

「われらは、『全く潔く』されることはすべての信者の特権にして、『霊と心と体を全く守』られて、『われらの主イエス・キリストの来りたもうとき責むべき所なき』に至り得ることを信ず。」

「全く潔く」されることは、聖潔の実質であり、「霊と心と体とを全く守」られることは、聖潔の効果であり、「われらの主イエス・キリストの来りたもうとき責むべき所なき」に至り得るとは、聖潔の背景である。

（続く）

NEWS !! NEWS !!

各地のニュース !!

ウエリントン・シタデル・バンド 2019 来日ツアー①

11月30日（土）、ウエリントン・シタデル・バンド（WCB）一行は、シンガポールでの２日間の日程を終えて羽田空港に早朝到着。楽器とスーツケースをトラックに積み替え、楽隊員たちは新幹線で仙台に移動しました。

仙台地区

同日、夕方から南光台コミュニティーセンターでリハーサル。翌日のコンサートで共演する仙台ブリティッシュ・ブラス・バンド（SBBB）のメンバーも練習に加わりました。

12月１日（日）、献堂式を間近に控えた仙台小隊新会館に近い、南光台コミュニティーセンターを会場に音楽聖別会が開催されました。仙台小隊戦友、近隣の方々やＳＢＢＢのメンバーが集い、仙台小隊長粟飯原順中尉の司会で進められました。グレントン・ワウ楽隊員の証言、オリビア・シートさんの独唱があり、ウエリントン市小隊長ペリー・ブレイ大尉が「光の子として生きる」と題してエフェソの信徒への手紙４章からメッセージを語りました。午後２時半から仙台市立南光台中学校体育館で開催されたWCB&SBBBクリスマスコンサートには、満堂の450人以上が集い、力強い演奏に盛んな拍手が送られました。夕方から南光台コミュニティーセンターでWCBとSBBBの交流会がもたれ、WCBが祝祷の歌をSBBBに贈りました。

12月２日（月）、仙台市郊外の丘陵にキャンパスをもつミッションスクールの尚絅学院大学。その多目的ホールに400人以上の学生が集い「WCBを迎えての賛美と礼拝」がおこなわれました。力強いオープニング曲に続いて宗教部長今井誠二教授が祈りを献げ、２部構成のプログラムがスタート。クラシックのアレンジやイタリア歌曲の独唱など多彩な演奏の合間に、20代のロックラン・ヤング楽隊員とブレンナ・スミス楽隊員が証言。ペリー・ブレイ大尉が「博士たちのようにイエス様を選ぶことも、ヘロデのようにイエス様を拒むことも、私たちには選択できます。どうか正しい選択をしてください」と学生たちにメッセージを語りました。その後、学生代表と昼食交友会の時をもちました。

札幌地区

12月３日（火）、前日に札幌入りしたWCBは、３つの救世軍の保育園（しせいかん保育園、桑園保育所、菊水上町保育園）に分かれて、カロルの演奏と子どもたちとの交流の時をもちました。昼からは北星学園大学のウエブスター・グローブス・ホールでチャペルコンサートを開催。酒井玲子学園長が歓迎の言葉を英語で述べられてプログラムがスタート。演奏の間にナイジェル・ミラー楽隊員が証しし、ペリー・ブレイ大尉が「羊飼いたちが幼子イエスを捜しあてたように、わたしたちも救い主を捜しに行こう」と210人の聴衆にクリスマスメッセージを語りました。（以後の報告は『ときのこえ』〔広報版〕陽春号に掲載）

写真上より
・仙台ブリティッシュ・ブラス・バンド（SBBB）との練習
・南光台中学校体育館。SBBBを歓迎する仙台小隊長
・尚絅学院大学多目的ホールで
・北星学園大学ウエブスター・グローブス・ホールで

2019年感謝祭募金結果
14,326,042円
2019年９月15～30日におこなわれた感謝祭の募金活動に御協力いただきありがとうございました。日本国内の救世軍の活動を支える尊い御支援を心から感謝いたします。（2019年12月10日現在）

集会報告

感謝祭献納集会
2019年10月４日（金）午後７時　杉並小隊・総合センター

西日本連隊 音楽祭 及び 第49回 大阪府民クリスマス・プレ集会
11月17日（日）午後２時半　大阪セントラルホール

感謝祭献納集会

集会は、杉並・江東小隊合同バンドの演奏で始まり、宇賀神努ワーシップ軍曹（杉並）の司会で、神様への感謝と賛美あふれる集会が進められました。司会者が開会祈祷を献げ、司令官ケネス・メイナー大佐は、挨拶において、感謝祭募金の結果を発表。軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐が、献げ物と、献げてくださった方、募金従事者を祝福で満たしてくださる神様への感謝を祈りました。ジャパン・スタッフ・ソングスターズ（写真下左）の合唱に続いて、眞鍋嗣道候補生（写真下中）が、「妻の恵候補生が骨折したため、家族に仕えつつ、神にしっかりとつながることを第一にして募金に従事できた。募金中も福音を伝える機会として、私が語るべきことを示してくださるよう、日々神に祈り求めることができた」と募金に従事した恵みを証ししました。

引き続き、士官志願者祈祷週間にあたり、士官志願者部で作成された動画が上映され、士官学校での候補生の歩みと恵みを垣間見ることができました。石川凜さん（杉並）が聖書朗読をし、医療部長ピーター・ホワイト少佐（写真下右）は「神様に感謝しながら生きる人生」（テサロニケ一５・12～22）と題して、「詩編には、神への感謝が多く記され、旧新約聖書も、一貫して神に感謝することを示している。わたしたちの必要が満たされること、イエスと、イエスによる罪からの救いを感謝する。また、互いのゆえに神に感謝し、その違いに感謝する。互いに励まし、支え、理解し合い、霊の火を燃やし続けることができるようでありたい。いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝する者として、若い人々を励まし、日本において伝道の新しい章を開いていくことができるように祈ろう」と語りました。

その後、熱心な祈りの時がもたれ、書記長官西村保大佐補の祈りをもって散会しました。（会衆95人、恵の座14人）

西日本連隊 音楽祭及び第49回 大阪府民クリスマス・プレ集会

11月17日（日）、大阪地区の小隊関係者が集い、木村照子少佐（西成・写真左）の司会によって進められました。大阪セントラルホール・バンド（ＯＣＢ）によるクリスマスの曲の演奏、ＯＣＢと天満小隊家庭団タンバリン隊との共演、西成小隊メンバーによる合唱（写真右上）、間島正悟兵士（天満）の証言と、ＯＣＢとの合奏によるソロ演奏（写真右中）、大阪地区士官による合唱がありました。

大畑隆志兵士（西成）による聖書朗読の後、三澤良子少佐（泉尾）が、「新たなる方角」（イザヤ９・１）と題して、メッセージを語りました。

会衆一同でクリスマスカロルを歌いつつ、御言葉を通して救い主の誕生を祝うクリスマスへ心を向ける音楽祭となりました。（会衆 46人、うち子ども５人）

兵士献身サンデー
２月２日
２月・スチュワードシップ月間
「管理者に要求されるのは忠実であることです。」
（コリントの信徒への手紙一 ４章２節）

NEWS !! NEWS !!

各地のニュース !!

清瀬小隊

2019年10月20日、女性部サンデーの聖別会の席上、司令官ケネス・メイナー大佐の司式で、高橋恵子准兵士の兵士入隊式がおこなわれました。高橋兵士は、若いころ清瀬病院で看護学生として働いていました。一同で新しい兵士の誕生を喜びました。最後に、軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐が、「新しい人」（コロサイ3・9〜14）と題してメッセージしました。

京都小隊

9月29日（日）、小林勝利少佐夫妻を迎えて、召天者合同記念聖別会を守りました。

ブース記念病院

103周年記念集会

11月11日（月）、山室機恵子記念チャペルでおこないました。席上、書記長官西村保大佐補より永年勤続感謝状が43人に渡され、代表して30年勤続の田嶋勇喜さん（写真右端）が受け取りました。書記長官は、「愛を加え」（コロサイ3・12〜17）と題して、「患者さんを大切にし、同僚同士が教え諭し合って病院の働きを更に進めてほしい」と励ましました。（参加者36人）

桐生小隊

●9月24日（火）、佐野・桐生小隊合同家庭団例会を桐生小隊でおこないました。ゲストに張田和子中将を迎え、昼食会後、御言葉を聞き、お交わりの楽しい時を過ごしました。

●10月6日（日）、司令官ケネス・メイナー大佐及び軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐出陣による特別聖別会がおこなわれました。

司会の連隊長藤井健次大佐補のもと、桐生小隊バンドの伴奏で神を賛美しました。司令官は、西川真人さんの兵士入隊式を司式。西川兵士は、恵の座での神のお導きによって、キリストの兵士となる確信が与えられたことを証しました。司令官は、ネヘミヤ記4章4〜8節から、「致命的なもの」と題して、どのような困難の中でも、神のもとに希望があり、勝利がある、と力強く御言葉を取り次ぎました。集会後、司令官を中心に、昼食と良い交わりの時をもちました。（会衆24人、恵の座2人）

月島小隊

10月3日（木）、10月1日に召天された、久保宣民さんの告別式が小隊会館で執りおこなわれました。久保虎爾特務曹長の次男として高知県に誕生、月島小隊兵士として信仰生活を続け、久保特務の働きを支えて自らも年末の社会鍋に立たれました。79歳でした。御遺族、関係者の上に神様のお慰めがありますようお祈りいたします。

高知小隊

開戦100周年・献堂30周年記念集会

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした」（使徒4・31）と高壇に掲げられた御言葉のごとく、開戦100年を喜び祝う多くの方々の祈りによって、神の家族の温かさと聖霊に満たされた勝利と祝福の時となった。

2019年11月9日（土）午後、出陣者と西日本連隊内外（天満・清瀬・渋谷・高松各小隊）からの応援協力者の到着に奨励を得、夕刻、26人で中万々地区（小隊近隣約1キロ）を行軍。青く澄み切った空と救世軍旗の下、天満小隊バンド＆タンバリン隊の楽の音が響き渡り、近隣住民の笑顔も行軍に届けられた。行軍に先立って、客員信徒による熱心なチラシ配布もなされた。

10日（日）午前、小隊前での野戦後、記念聖別会開会。司会の小隊長加茂あづさ大尉が会衆を歓迎。ゲストの21代小隊長（現会館献堂時の小隊士官）徳永幸次郎少佐夫妻は、高知時代の尽きない思い出とともに感謝の挨拶。徳永幸次郎少佐は、「神はいつも味方です」（ローマ8・31〜39）と題して、「救いの道を開いてくださっただけでなく、私たちの必要を知って、完全に満たし、天からとりなしてくださる神様がいつも味方である。艱難も苦しみも、すべて大丈夫！」と会衆に力強く語った。説教に先立ち、徳永由美少佐は「高知小隊と戦友方を通して神様がなされた恵みの御業の数々」への感謝と確信を込めて、会衆の心に染み入る証言を語った。司令官ケネス・メイナー大佐及びシェリル・メイナー大佐は、動画による祝辞で、「新しい一歩を踏み出すこの日、神様の愛が皆さんの人生を変革し、美しい光となって人生を輝かせるものとなるように。勇気ある信仰に立ち、新しいビジョンをいただく時となるように」と奨励。続いて、高知小隊に2度の任命（追手筋会館時代及び現会館時代）を受けた加茂コソメ少佐が、古き時代の戦いから「主は天から御覧になり、高知小隊と一人ひとりに必要な御業をなしてくださる」（詩編33・13〜15）と、恵みに感謝して祝辞を述べた。

安井晃軍旗軍曹に連隊長添田美和少佐より下士官永年勤続章（10年）が授与される。安井軍曹は、「希望はなかなか叶うことはないが神様による希望は必ず実現される」と、主に出会えた喜びを涙ながらに証言。総勢15人での遠征応援となった天満小隊バンド＆タンバリン隊（前田徳晴楽長指揮）によって、「主われを愛す」、「世界に救いの音楽を」の演奏が献げられ、「救いと聖潔、救世軍音楽の花」が咲く。演奏の中には、鈴木肇元ジャパン・スタッフ・バンド楽長が特別応援として指揮する一幕もあった。終始会館には主の栄光が輝き、聖霊に満たされた会衆は恵の座に進み出て、回心、再決心、再献身、聖潔の祈りへと導かれた。感謝の祈りの後、後奏「アメイジンググレイス」をもって恵みのうちに閉会した。（野戦参加者26人、聖別会 会衆40人、うち新来者4人、恵の座17人、うち回心者2人）

午後の記念感謝愛餐会は、司会の小隊長が「私たちとキリストとの交わりは『食事』として現される」と宣言して開会。天満小隊バンド＆タンバリン隊によるオープニング演奏、高知自慢の皿鉢料理が会を盛り上げ、出席者の霊肉を喜びで満たした。一同、思い思いに喜びや良き思い出を語り合い、主にある交わりを深める。レディングトン・建牧師（天王ニューライフチャペル）、平林稔牧師（高知伊勢崎キリスト教会）も駆けつけてくださり、祝辞をいただいた。全国から届けられたお祝いのメッセージや高知小隊にまつわる恵みの証言を共に分かち合い、感謝の祈りをもって散会。（出席者47人）

かつて高知小隊で善戦された戦友の御家族、しばらく振りに行ってみよう！ と招かれた方々、初めてキリスト教会の敷居をまたぎました、との新来者もあった。これまで高知小隊を支えられたすべての方々の戦いと歴史に働かれた主の摂理に心からの敬意と感謝を献げ、主の御名を賛美します、ハレルヤ！

左写真上より
・晴天の下でなされた野戦と行軍
・大胆に語る徳永幸次郎少佐
・安井晃軍旗軍曹を囲んで
・天満小隊バンド＆タンバリン隊

災害対策室リポート

■台風19号による被害を受けた地域への支援

2019年10月12日（土）、関東・甲信越・東北地方等に甚大な被害をもたらした台風19号。関東東北連隊、東京東海道連隊を中心に支援活動をおこないました。

○関東東北連隊による被災地支援

13日（日）、支援品（45Lのゴミ袋、ビニール手袋、軍手等）を佐野保育園職員と小隊有志計23人で、13件に配布しました。

14日（月・祝）、被災した保育園職員宅の災害粗大ごみの搬出を手伝いました。（参加者4人）

15日（火）、避難所の佐野市茂呂山老人福祉センター「いこいの里茂呂山」を訪問。センター長は元佐野小学校校長で佐野保育園の理解者。日用品支援セットと手作りクッキー（写真左）を配布し、「お菓子が食べたかった」という声をいただきました。（参加者11人）

16日（水）、佐野市赤坂町臨時災害粗大ごみ集積所にて、赤坂町内会長斎藤武男氏に、支援品100組を届けました。顔を見ながら支援品を直に渡したいとの希望に応えた支援でした。（参加者7人）

午後、佐野保育園より、保育園関係者2軒に支援品を届け、連隊チーム（保育園職員、連隊内士官）による汚泥の除去作業がおこなわれました。（参加者10人）

17日（木）、連隊チームで保育園関係者の災害粗大ゴミの搬出や汚泥を除去。救世軍本営から5人合流し、ワールド・ビジョン・ジャパンより、今西浩明さん、李義真さん、高橋布美子さんが参加してくださいました。（参加者15人）

18日（金）、19日（土）、ワールド・ビジョン・ジャパンより支援物資（除菌シート、安全眼鏡、作業マスク、高圧洗浄機等）が到着。

21日（月）、連隊チームの汚泥除去作業に救世軍医療部及び社会福祉部より5人が合流。また、奉仕者と被災者家族に温かい手作り弁当を届けました。（参加者11人）

22日（火）午前、佐野市役所に罹災証明書手続きに来られる方々のため、コーヒーサービス。連隊チームと小隊有志、保育園保護者など10人が参加しました。午後には、災害粗大ゴミ（冷蔵庫、洗濯機、箪笥等）を軽トラックで集積所に搬出しました。（参加4人）

23日（水）、側溝汚泥除去作業。連隊チームに救世軍医療部及び社会福祉部より7人合流。（参加者16人）

24日（木）、株式会社田島建設の倉持徹主査現場調査。

27日（日）、24日に準備した支援品を、長野県豊野介護サービスセンター居宅介護支援事業所（長野分隊山岸益子所長）に司令官ケネス・メイナー大佐、軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐、中島美和大尉、長野分隊一同で10セット手渡しました。その後被災地を視察し、午後は、賛育会クリニックを訪問。日用品30セットを贈呈しました。

写真上より
・支援品の準備
・手作業での汚泥の除去作業
・ワールド・ビジョン・ジャパンより支援品をいただく
・重機を使って大量の災害ゴミを運搬するための作業

28日（月）、上田市の募金先を訪問し、日用品8セットを届けました。（参加者2人）

30日（水）、汚泥除去作業及び災害ゴミ集積所への運搬作業。連隊チームに東京地区、西日本連隊から13人合流。株式会社田島建設からスタッフ8人、3トントラック3台、4トントラック1台、7トントラック1台、ユンボ1台の手配等の協力をいただきました。（参加者計31人）

11月13日（水）、避難所の佐野市茂呂山老人福祉センター「いこいの里茂呂山」を訪問し、手作りの夕食支援をしました。（参加者10人）

○東京東海道連隊による川崎市中原区災害支援

10月16日（水）、渋谷小隊に集合し、物資袋詰め作業後出発し、川崎市介護老人福祉施設「みやうち」に到着。施設に支援品（ハンドタオル500本、ドリンク剤50本、ゴミ袋150枚）をお届けし、3組に分かれて、近隣160軒を一軒一軒歩いて訪問し、民家には慰問品セット（ゴミ袋、バスタオル、アルコール液、軍手10組等）を、工場にはドリンク剤または慰問品セットをお渡ししました。（士官及び士官学校より10人参加　写真10ページ）（10ページに続く）

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

臨時社会鍋

台風被災地支援のために

●西日本連隊

2019年10月14日（月・祝）、20日（日）に、天神橋筋商店街にて、18日（金）～24日（木）には、難波高島屋前にておこない、若い人や海外の人、多くの年齢層の人が献げてくださいました。8日間で合計66万円以上の御協力を得ました。その他、京都、広島、八幡各小隊では、小隊玄関前などで社会鍋募金をおこないました。

大阪地区で集められた資金は、10月30日（水）におこなわれた、救世軍による栃木県佐野市への支援と、11月15日（金）から12月中旬まで、クラッシュ・ジャパン、キリスト教会広島災害対策室等と協力しておこなった千葉県での「館山屋根修理プロジェクト」の資金として用いられました。この屋根修理プロジェクトは、一昨年の西日本豪雨の教訓を生かした、約一年耐えられる補修を屋根に施す支援です。

●遠軽小隊

10月22日（火）、北海道新聞朝刊の地方欄に被災地支援のための社会鍋の案内が数行掲載され、車で前を通るドライバーにも看板やのぼりを通して社会鍋募金を訴えました。献金は、計5,200円。感謝！

●その他、救世軍本営前の社会鍋及び本営への直接送金（社会鍋や災害支援のための中央災害資金宛）、インターネットのサポート会を通しての送金を合わせ、合計約145万円（2019年12月5日現在）の御支援をいただきました。引き続き被災地を覚えてお祈りください。

（災害対策室リポート続き）

■2018年西日本豪雨災害被災地継続支援

11月30日（土）、キリスト教会広島災害対策室主催による、呉市天応地区での給食支援がおこなわれました。2018年以来、今も仮設住宅におられる方々への支援で、天応地区で80食のカレーを昼食に提供しました。救世軍からは、クリスマスのお菓子とミニクリスマスカードを社会鍋の資金から支援し、士官3人と呉地区施設から2人が調理及び配布に参加しました。

川崎市では、お一人おひとりに声をかけつつ支援品を届けた（記事11ページ）

遠軽小隊

10月22日（火）、人事・教育部長石川一由紀少佐夫妻による伝道キャンペーンがおこなわれました。午後2時より小隊長眞鍋精一少佐の司会で進められました。帯広小隊長樋口潔中尉・光世中尉夫妻のリードで、会衆がホールを歩いて賛美し、連隊長鈴木智博大尉の導きで、互いに握手をして挨拶。軍国女性部書記補佐石川芳子少佐の勧話と人事・教育部長のギターの伴奏による手話を交えた賛美がありました。連隊女性部書記鈴木眞理子大尉のリードによって、キャンドルを灯して「御言葉の約束に立って祈りをささげる」時ももたれました。

人事・教育部長は「赦すことからはじまる」と題して、メッセージ。神様の霊の導きと祝福に溢れた集会でした。（会衆18人、恵の座10人・写真16ページに掲載）

渋谷小隊・八王子分隊

11月27日（水）、八王子労政会館にて八王子分隊のクリスマス祝会をいたしました。渋谷・大森両小隊の戦友が集い、細貝忠義少佐によるメッセージ「お言葉どおりなりますように」を聞き、プレゼント交換をして楽しいひと時を過ごしました。（会衆10人）

男子社会奉仕センター

50周年記念行事

11月13日（水）、帝国ホテルを会場に、開設50周年の記念食事会を開きました。ゲストの書記長官西村保大佐補は、イエス様が弟子の足を洗われたことを覚えて、これからも男子社会奉仕センターが「神と人に仕えるものとなるように」と奨励し、施設長岡本貴仁少佐が祈りを献げて会食の時をもちました。

テレビ放映

11月30日（土）、テレビ東京の番組「出没！ アド街ック天国」の「方南町」特集で、地域で人気の場所としてセンターの働きが紹介されました。

NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

杉並小隊・総合センター別館

2019年12月8日（日）、米国総司令部書記長官ジェフリー・スミス大佐及び女性部書記ドロシー・スミス大佐を司式者に迎えて、開館式及び献堂式（写真上・司式者）が執りおこなわれました。

左より、開館式でテープカットをする軍国女性部会長シェリル・メイナー大佐、ドロシー・スミス大佐、本村いずみ少佐（杉並）

女性部

●一円献金

10月20日、全国各地で女性部サンデーが守られ、席上、一円献金の献納式がおこなわれました（写真 西成小隊）。救世軍の小隊・施設・病院及びNCC世界祈祷日より寄せられた献金は、合計100万7514円（2019年11月30日現在）となりました。感謝いたします。

2020年は、カンボジアで救世軍がおこなっているプノンペンの貧困地域への宣教のために献げられます。

●女性の働き新局面

2020年、万国的に「女性の働き」が新しい局面を迎えます。2月12日（水）、万国本営からのライブストリーム（生中継）を通して、新しいロゴなどが発表される予定です。（英国時間朝9時30分。日本時間午後6時30分）

日本でも、これまでの『家庭団 コータリー・プログラム』が終刊し、4月より、新しい冊子に変わる等、新しい局面に備えています。

福山小隊

10月26日（土）、「オリーブパーティー」（ママの時間）をおこない、親子でマドレーヌをつくりました。「オリーブパーティー」では、毎回参加者で子育て談議を重ね、子育ての心配や疑問を出し合い、互いの知恵を出し合って、次回までに行動を変えることにチャレンジしています。この日は、「言っても聞かない子どもの対応」をテーマにしました。最後に試食をし、祈り合って会を閉じました。

高松小隊

7月28日（日）、午前は小豆島オリーブ公園のオリーブの木陰で、大人も子どもも輪になっての聖別会をおこないました。ランチを共にした後、午後からは窪田健康兵士が所長を務める「小豆オリーブ研究所」主催の夏休みこども教室「オリーブについてしらべよう」に、間島兵士ファミリーと小隊長が参加。並行して、大人部は「カトリック小豆島教会」を見学しました。最後に合流し、全員で高山右近がキリシタンとして身を潜めた中山地区（小豆島山間部）を散策。最終のフェリーにて高松港に戻り散会しました。

日曜学校教師奨励サンデー
2月9日
子どもたちの信仰のため働く先生のために祈りましょう

高知小隊

7月31日（水）、2019年夏・ファミリー修養会をおこないました。午前は、小隊会館で礼拝を守り、全員が「神の家族」として一つであることを、ゲーム形式で体感しました。御言葉を復唱しながら、共にあることに感謝を献げ、お互いのために祈りました。

集会後、嶺北地区（四国山脈山間部）へ出発！ この地域に住んでいる戦友が今年も合流しました。

早明浦湖近くで「真夏のバーベQ」。豊かな水の恵みを感じながら山を下り、道中、立ち寄った川で川遊び。

初めて参加した方が2人あり、神様の子どもとして童心に帰り、土佐の自然の豊かさの中で、主にある交わりを深めました。

青少年部

●『キッズ・ゴスペル』塗り絵コンテスト

全国から19人応募してくれました。司令官ケネス・メイナー大佐の審査によって、以下の方が受賞しました。おめでとうございます！

ひよこ大賞　沖　みさきちゃん　4歳・月島小隊
　　　　　関根いぶきちゃん　5歳・渋谷小隊
うさぎ大賞　縄田　彩夏さん　2年生・八幡小隊
キリン大賞　沖　みゆうさん　5年生・月島小隊

YP（青少年部）・ファミリーニュース

レボリューション・ハワイの恵み

神田小隊　兵士 山口エリ（写真左端）

神様のおかげでレボリューション・ハワイ（レボハイ）で1年間の弟子訓練を受けられたことに感謝しています。以前から示されていた中、急にチャンスが来ました。情報をギリギリに知ったので、後悔したくないと、ダメ元で人生を変えるため勇気を出して飛び込みました！ すると奇跡的に行けることになり驚きました。「人はたくさんの計画を立てますが、主の計画だけが成るのです」（箴言19・21『リビングバイブル』）と示され、自分自身衝撃を受けました。

私は、レボハイに行く決断をすることで、大切な物を捨てましたが、その分大切な物を得ました。それは、神様から賜物を与えられ、神様の愛と自分を知り、賛美のすばらしさ、祈りの力、断食の大切さ、集団行動の人間関係について学んだことです。また、レボハイの良かったことは、神様との一対一の会話をもったことです。自然の中で一人で祈り、神様の声を聞き、聖書を読み、解放され、自分を見つめ直す時間として助けられました。

日曜日の朝と夜の礼拝では、私はワーシップチームの一員として集会を導きました。夜の礼拝に街頭生活をしている人々や、薬物やアルコール依存症の方々を招待しました。まず、街頭生活者が多く治安の悪い街に出かけて行き、自分たちでつくったサンドイッチを配り、共に祈り、友になり、信頼関係を深めて教会に招待しました。印象深かった経験は、街頭生活をしている方の足を洗い、爪を切り、喜んでいただけたことです。最初は恐れていたけど、自分を低くして、イエス様が弟子たちの足を洗われたように、謙虚になることが大事だと学びました。そんな中、私もサプライズで街頭生活体験をしました。寝る場所、トイレ、ダンボールを捜し、歩いていると、人々から差別され、街頭生活の痛みを痛感しました。救世軍の街頭生活者支援施設に行き、御飯をいただき、食べられるありがたみを感謝しながら食べました。また、寒かったので、シェルターに行って、交渉してバザー場で服をいただきました。その時、助けてもらえてありがたかったです。街頭生活体験を通して、毎日がサバイバルで生きていくのは本当に大変、と痛感しました。また辛い時こそ神様に祈ることの大切さを学びました。祈るとき、神様は私の暗闇に光を与えてくださいました。祈りは聞かれ、与えられた御言葉によって行動することが大事だと教えられました。毎日デボーションで聖書通読し、神様から励ましを与えられました。「それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです」（コリント二 12・10）とあるように、自分の弱さを知ってこそ、強くされ、改善されるので、自分を知る大切さを学んだ経験を日々生かして成長していきたいです。そして、神様の力によって強くなるということを学びました。「あなたがたも心配しないで、安心していなさい。こんなにも念には念を入れて話したのは、そのためなのですから。確かに、この世では苦難と悲しみが山ほどあります。しかし、元気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」（ヨハネ16・33『リビングバイブル』）と示され、イエス様はすでに勝っているのだから恐れることはない、と不安になるとき、この御言葉を糧にしました。また、賛美の大切さを学びました。みんなと歌でコミュニケーションし、勇気を出してハーモニーをしました。日本では遠慮していたのですが、より良い賛美をすることができるなら、と殻を打ち破り、思いっきり賛美することができるようになりました。そんな中で、ワーシップチームに選ばれました。私のビジョンは以前からワーシップチームをつくることだったので、積極的に勇気をもって行動することが大事だと学びました。私はそれまで集団生活や人間関係が辛く、自分を見失って落ち込んでいましたが、神様は見捨てずに私を用い、存在価値を見いださせてくださったことが私の喜びです。神様に「私を使って賛美をさせてください！」と祈りながら演奏していると、自分ではなくなったように全身全霊で演奏し、神様のことを賛美したくて仕方がなくなりました。演奏中、聖霊に満たされ、賛美の大事さを実感しました。賛美はいつでもできるし、落ち込んで歌えない心情の時こそ賛美することで歌詞が神様からの言葉に聞こえ、励まされ、メッセージが与えられ、癒されました。今改めて思い返すと、辛い経験をしたことにより、人の痛みを理解できる憐れみの賜物が神様から与えられ、すべての経験が私を強め、新しい自分になることができたと思います。神様のおかげで、奇跡や感動、すばらしい経験をさせていただきました。この御言葉を私の証言とします。「愛する皆さん。あなたがたの人生は、多くの困難と誘惑に満ちていますか。そうであれば喜びなさい。 行く道が険しければ、それは忍耐を養う良いチャンスとなるからです。 忍耐力を十分に養いなさい。さまざまな問題が持ち上がった時、そこから逃げ出そうともがいてはいけません。忍耐力が十分身につけば、完全に成長した、どんなことにもびくともしない、強い人になれるでしょう。」（ヤコブ1・2～4『リビングバイブル』）ハレルヤ！

ロバート・ライトマイヤー中将　天に召さる

ロバート・ライトマイヤー中将は、2019年10月1日、御家族の見守る中、自宅より召天されました。95歳でした。

1946年、米国東部軍国の士官学校より『挑戦者』の学年から任官され、ヨークビル小隊の任を受けました。

1947年、キャサリン・スティルウェル大尉と結婚後は、小隊長、連隊ユース・リーダー、連隊本部、士官学校での任命を歴任。1964年、日本に任じられ、7年間の関西連隊での任命後、一時帰国。1973年から、日本軍国総務部長（現書記長官）を経て、1978年から5年間、司令官として奉仕されました。その後、韓国や南アフリカでも軍国指導者として奉仕。1986年、米国中央軍国の司令官に任ぜられ、1989年に引退後は、オーシャン・カウンティ・シタデル小隊の士官兵士として、周りの方々に良い感化を及ぼされました。2017年には、キャサリン中将が召天。二人のお子さんのうち、エヴェリン・メリアム少佐は、日本でも奉仕されました。告別式は10月7日、ウィリアム・カールソン大佐の司式により、ランカスター・シタデル小隊においておこなわれ、翌8日には、救世軍墓所にて、埋葬式がおこなわれました。

御遺族、関係者の上に神様のお慰めをお祈りいたします。

持丸智恵子少佐　天に召さる

持丸智恵子少佐は、2019年9月30日、入院中のブース記念病院より召天されました。92歳でした。

1951（昭和26）年、神田小隊より『中保者』（当時表記）の学年に入校。翌7月、少尉に任ぜられ、神戸小隊副官の任を受け、京都小隊長、女子青年館付を経て、1955年に本営編集部付の任を受けられました。

1957年大尉に任ぜられ、1964年、編集部長の任を受け、翌年、ICO（士官のための万国士官学校）及び救世軍百年祭出席のため渡英。1974年、少佐に任ぜられ、エディター・イン・チーフの任を受け、1977年、25年永年勤続章を受章。翌年、救世軍万国大会に出席。1979年編集及び文書部長、1984年、清瀬地区総合チャプレン（本営直属）、（兼）清瀬小隊長、1986年3月、朝光寮施設長心得、同年7月、翻訳係（書記長官部）と歴任しました。1987年、35年永年勤続章を受章。1992年に引退後も翻訳係（書記長官部）の任を継続されました。司令官部の任命を最後に1999年に完全引退後も、神田小隊に属し、士官兵士として信仰の良き導きを続けられました。

告別式は10月1日、吉田眞中将の司式で、杉並小隊・総合センターにおいておこなわれました。

御遺族の上に神様のお慰めをお祈りいたします。

〈救世軍見解表明の解説〉

救世軍見解表明「人工妊娠中絶」について

世界保健機関の調査によれば、妊娠の約25パーセントにあたる、5600万件の人工妊娠中絶が毎年おこなわれています。これは、毎日153,425件の人工妊娠中絶がおこなわれていることになります。この事実は、生まれることのなかった命（胎児）も大切であり、神の形に似せて造られたことを信じる人々にとって、本当に心を痛めることです。

2008年に救世軍において「万国倫理及び社会問題会議」が設立されて以来、大将は、16件の見解表明を承認しました。そのうちで、最も論議されたものが、人工妊娠中絶に関する2010年承認の見解表明でした。救世軍人の中に、それがあまりにも保守的すぎるという意見もありましたが、むしろ、中絶に対して寛容すぎるとの批判が多くを占めました。

救世軍の見解は、人工妊娠中絶に強く反対し、「女性の選択権」の議論を受け入れていません。救世軍は、人間の命は、懐妊から始まるのであり、その時点から、人の命は尊厳と敬意とをもって取り扱われるべきだと信じます。見解表明に対する批判は、人工妊娠中絶が認められる範囲が、真に特別な場合にのみ限定されるべきだというものです。それら限定的な状況については、1980年代から、救世軍の見解表明に含まれています。第一の限定的な状況とは、「妊娠状態の継続が、母体に死の危険を生じさせるような時」です。この例外的な状況とは、医師が、母親の命と胎児の命のどちらかを選択しなければならないような状況を指します。このような、まれな、また痛ましい状況において、救世軍の見解表明は、母体の命を優先することを勧めています。このような状況は、医療の進んだ西欧の病院ではまれにしか起こらないかもしれませんが、両方の命を救うことができるような医療設備と医療技術とが不足している地域では、残念ながら、起こることがあるでしょう。人工妊娠中絶が容認されると思われる第二の限定的な状況とは、「信頼に足る検査診断の結果、胎児の状態に異常が認められ、生後すぐに亡くなることが判明している時」を指します。

救世軍の見解表明は、レイプの場合の人工妊娠中絶が許されるかどうかについて見解を示していません。しかし、妊娠がその女性に、深刻かつ深い傷を負わせている場合、特に、レイプが「戦争の武器」として用いられ、自らを防御することのできない女性やコミュニティを卑しめるために用いられた場合においては、人工妊娠中絶を容認しています。多くの女性が、暴行され、レイプされています。その結果、彼女たちは、負う必要のない罪の意識を感じ、家族からさえ避けられています。このような痛みは、推し量ることができないほど大きいものです。このような状況においては、誰もが、限りない愛と理解とを示すべきでしょう。

同意のない暴力的行為によって生まれた命も、一人の命です。しかし、そのような結果を生み出したのは、罪悪による行為であり、そのような場合、その命も、母親も責められるべきではありません。ですから、そのような行為によって生まれた命は、より大きな愛によって受け入れられるべきものです。

世界的に見た人工中絶の実態

2010年から2014年の間に全世界でおこなわれた人工妊娠中絶は、年平均で、5600万件に上ります。この数字は、1990年から1994年の平均、5000万件からかなりの増加になりますが、主な原因は人口増加にあります。世界的には、2010年から2014年の間、毎年15歳から44歳の1000人の女性のうち35件の割合で人工妊娠中絶があり、1990年から1994年の間の統計、1000人当たり40件に比べ、若干減少しています。1990年以来、人工妊娠中絶の件数は、先進国においては41％の減と、大きな減少を見ていますが、開発途上国においては、ほとんど変化が見られません。世界的な数字としては、2010年から2014年の間に、年間平均で全体の25％の妊娠が中絶され、そして、同じ期間のすべての人工妊娠中絶のうち、73％件、数にして4100万件は、既婚女性によるものです。

人工妊娠中絶の割合は、人工妊娠中絶が禁止されている国と、法的に認められている国との間に大きな違いはありません。開発途上国においては、安全な中絶処置がとられないための合併症が生じるケースが、年間約700万件あり、その結果、少なくとも、約2万2000人の死者を生み出しています。

（初出：『士官雑誌』〔2019年4－6月号・万国本営発行・英文〕万国本営より転載の承認済）

救世軍公報

任命（カッコ内は継続任命）

補（兼）福岡小隊長補佐
（八幡小隊長及び（兼）西日本連隊〔中国九州地区〕連隊長補佐）
樋口　和光少佐

二〇一九年十月十日付

司令官　ケネス・メイナー

救世軍見解表明

社会道徳に対する救世軍の立場
第1回「人工妊娠中絶」（4）

実際的な対応

1.　救世軍は、性交渉は婚姻関係においてのみ守られ、結婚前には避けるべきである、というクリスチャンの考え方を守り、かつ、だれもがその考え方によって生きるよう励まします。

2.　胎児の保護とケアに対する真剣な取り組みとして、わたしたちは、信頼できる避妊方法の提供や、安心できる関係性、女性に対する社会的尊重などを通して、望まない妊娠を予防することに力を尽くします。

3.　救世軍は、人工妊娠中絶が考慮される際、両親と胎児のニーズ、権利、責任について真剣に取り扱います。

4.　望まない妊娠が発生した場合、救世軍は、胎児が臨月まで守られるよう、両親の感情的、身体的、社会的、精神的なニーズに対する思いやりあるサポートが受けられるよう支援します。

5.　一部の国には、女性が妊娠状態を終了させる法的権利があります。女性と女性及び胎児を支える人々に対するカウンセリングを通して、妊娠を終了させないための方法が最大限考慮されるべきです。

6.　救世軍は、人工妊娠中絶を経験した女性に対し、差別することなく、愛と思いやりを表しつつ、配慮と尊重をもって支援することを求めます。また、人工妊娠中絶の影響下にある人々に対しても、愛と思いやりを示しつつ交流をもちます。

7.　救世軍は、妊娠を終わらせる決定は、感情的および身体的意味で、長期にわたる影響を与えること、またそれは、しばしば人間関係や自己肯定感を損なうことを理解しています。

8.　望まない妊娠は時に、劣悪な社会状況や、貧困と戦争の結果として生じます。救世軍は、人間の全体性と自由、命の質とすべての人々の可能性の開発を促進させる社会を提唱しています。（2010年11月大将によって承認）

第2回「アルコール」（1）

アルコールについての見解表明

救世軍は、すべての人々の健康と幸福を高める方法として、アルコールのないライフスタイルを奨励します。また、それを証しするために、救世軍の兵士はアルコールのない生活を選択します。

救世軍は、個人、家族、地域社会におけるアルコールの害を認識し、アルコールの消費を減らすことを提唱し、アルコールの使用による悪影響を受けた人々への支援と回復のためのサービスを提供しています。　（続く）

〈連載・第3回〉

神の呼びかけ　～神の民となるために～

（2）礼拝への呼びかけ

礼拝への呼びかけとは、生ける神を「礼拝し、ほめたたえる」ことへの呼びかけです。礼拝することとほめたたえることは切り離せないものです。フレデリック・クーツ大将はこう言っています。「わたしたちが、与えられているこのすばらしい力を用いて神のために働くのでなければ、わたしたちは真の意味で神を礼拝することはできない。」

わたしたちの礼拝が真心からのものであり、本物であるならば、わたしたちの生活に自然とキリストが表されます。ほめたたえることへの呼びかけには、積極的な姿勢が求められます。私たちはイエス様の主権を言い表す必要があります。私たちは宣教へと招かれています。しかし、キリストは「全世界に出て行って」と言われる前に、まず「わたしのところに来なさい」とおっしゃいます。わたしたちは、神様に向き直る時に、自分の霊的な命の泉を見いだすことができますが、それは祈りとデボーションという個人的な時間の中に、また人々と共に礼拝の時間をもつことを通して、可能になります。

わたしたちが霊的な生活を共有するために、集会は不可欠です。そこは自由が許されており、救世軍の中では、祈り、賛美、聖書の言葉、歌と証言、そして集会を指揮する者が個人的に備えた要素が含まれてきます。わたしたちの働きに必要なものが集会において提供されます。集会は、わたしたちの心が奉仕のために燃やされ、福音を分かち合うインスピレーションが与えられる場所であり、わたしたちの人生を変え、方向性を改める力がそこにはあります。すべては、神御自身がその集まりにおられるからです。その御臨在によって、神様が語られ、神様が働いてくださいます。

しかしながら、すべての集まりがその目的を果たしている訳でないことをわたしたちは認めます。神様が語っておられることを聞き逃すこと、神様がしておられることに気づかないことがあります。わたしたちが何を受け取るかは、どのような姿勢で集まりに臨んでいるかに左右されます。集まりは、お互いよりも、まず神様と過ごすことが第一です。もし個人的に自分が献げる礼拝から何かを受け取りたいのであれば、神様とのコミュニケーションが双方向であることが最も必要です。

イザヤ書55章3節には、主からの招きがこのように記されています。「わたしの民よ、耳を傾けて聞き、わたしのもとに来なさい。わたしのもとに来れば、命を得ることができる。」（グッド・ニュース・バイブル）この招きには関係性を見ることができます。マタイ11章28節には、イエス様が弟子たちを招いておられる様子が書かれています。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（続く）

創立者　ウイリアム・ブース
大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）
日本司令官　ケネス・メイナー（救世軍本営　東京都千代田区）
http://www.salvationarmy.or.jp

キャンペーンのアルバム

人事･教育部長石川一由紀少佐夫妻　2019年10月20日～27日
伝道事業部長 山谷真少佐　2019年10月19日～27日

写真位置
①
②
③⑧
④⑨
⑤⑩
⑥⑦⑪

①遠軽小隊（人事・教育部長 10 月 22 日〈火〉）
②釧路分隊（人事・教育部長 10 月 26 日〈土〉）
③福山小隊（伝道事業部長 10 月 19 日〈土〉）
④岡山小隊（伝道事業部長 10 月 20 日〈日〉）
⑤呉保育所（伝道事業部長 10 月 21 日〈月〉）
⑥大牟田分隊西山宅集会にて（伝道事業部長 10 月 26 日〈土〉）
⑦大津分隊坂本宅集会にて（伝道事業部長 10 月 26 日〈土〉）
⑧呉かるが会（伝道事業部長 10 月 23 日〈水〉）
⑨広島小隊（伝道事業部長 10 月 21 日〈月〉）
⑩福岡小隊（伝道事業部長 10 月 25 日〈金〉）
⑪八幡小隊（伝道事業部長 10 月 27 日〈日〉）

発行日及び定価
▼発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行（除く七月）
▼定価
福音版・一部　四〇円
広報版・一部　一〇〇円
クリスマス特集号（十二月一日号）・一部　一〇〇円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇〇
発行兼印刷人　救世軍　代表者 ケネス・メイナー
編集人　寺澤 眞由子
〒101―0051 東京都千代田区 神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三二三七―〇八八一
発行所　救世軍本営
印刷所　株式会社ピーアンドエス

（取扱支部）

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会